

2011年度

科目名	国語科授業研究				
担当教員	土山 和久				
配当	日文2		コード	43026	
開期	通年	講時	木曜日3限	単位数	4
授業テーマ	高等学校・中学校における国語科授業作りの基礎基本				
目的と概要	本授業では、高等学校あるいは中学校における国語科教育の今日的課題を確認し、教材分析を中心に授業構想の基本的能力に培うとともに、これからの国語科教育実践を考究することを目的とします。				
成績評価法	規定の出席数を評価の前提とし、レポート・課題提出(30%)、授業での発表活動(30%)、期末レポート(40%)から評価する。				
テキスト	特に定めない。授業に必要な資料は、その都度プリントの形で配布する。				
参考書	授業の中で、随時、呈示する。				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	本講義は毎時間の課題提出等、かなりハードなものとなることが予想されます。作業活動およびレポート作成に積極的に参加できる受講生を強く求めます。欠席は半期3回までとします。／準備学習として、教材分析を中心に課題を設定します。				
講義計画					
前期：前期は学習指導要領の改訂を踏まえながら読むことの教育の今日的課題を確認した上で、説明的文章および文学的文章の教材分析に重点を置きます。その際、「表現のしくみ」に意識することを基本とします。					
1 回　： 問題設定；読むことの教育の今日的課題					
2 回　： 「活用」の時代に求められる読みの力					
3 回　： 基本的アプローチとしての、「表現のしくみ」に着目した教材分析の基礎理解					
4 回　： 説明文教材の分析　その1					
5 回　： 説明文教材の分析　その2					
6 回　： 説明文教材の分析　その3					
7 回　： 評論教材の分析　その1					
8 回　： 評論教材の分析　その2					
9 回　： 詩歌教材の分析　その1					
1 0 回： 詩歌教材の分析　その2					
1 1 回： 物語・小説教材の分析　その1					
1 2 回： 物語・小説教材の分析　その2					
1 3 回： 物語・小説教材の分析　その3					
1 4 回： 古典教材の分析　その1					
1 5 回： 古典教材の分析　その2					
後期：後期の授業は、文学の授業の方法論に焦点を絞り、その多様性に模擬授業を通して出会いながら、文学の授業を構築する際の様々な問題性を考究します。					
1 回　： 問題設定　文学の授業の方法論の多様性					
2 回　： 解釈学的読解指導法（三読法）　その1					
3 回　： 解釈学的読解指導法（三読法）　その2					
4 回　： 一読総合法　その1					
5 回　： 一読総合法　その2					
6 回　： 分析批評の授業　その1					
7 回　： 分析批評の授業　その2					
8 回　： 読者論の授業　その1					
9 回　： 読者論の授業　その2					
1 0 回： 文学の授業における生産的方法　その1					
1 1 回： 文学の授業における生産的方法　その2					
1 2 回： 文学の授業における生産的方法　その3					
1 3 回： 読むことと書くことの関連学習　その1					
1 4 回： 読むことと書くことの関連学習　その2					
1 5 回： 後期の総括					